

財団法人

# 日韓文化交流基金 NEWS



特集

2002年サッカーW杯日韓共催にむけて  
広がる相互理解への取り組み

助成事業紹介

「こころの交流 朝鮮通信使  
- 江戸時代から21世紀へのメッセージ -」展

2001年度下半期助成対象事業

no. 19

2001

The Japan-Korea Cultural Foundation

表紙作家紹介

金賢姫 (キム ヒョンヒ)

- 1946 韓国京畿道生まれ。18歳の時から、刺し家としての道を歩み始める
- 1984 第9回韓国伝統工芸展に入選。以後毎年、奨励賞、特別賞などの受賞を重ねる
- 1990 東京の高島屋にて「韓国伝統工芸展」招待展
- 1994 国務総理賞を受賞
- 1995 東京の韓国文化院にて個展
- 1996 ソウルの一民美術館にて個展
- 1999 『韓国のパッチワーク-ボジャギ』出版(文化出版局)  
現在、刺し・ボジャギの「名匠」として作家活動を行うかたわら、伝統工芸建築学校にて後進の指導にあたっている

表紙作品



緋織チヨガツポ  
84×80センチ  
一九九九年

表紙撮影：縣 正三

日韓文化交流基金NEWS

目次

- 2 巻頭エッセイ  
キムパプと海苔巻 四方田犬彦  
表紙作家紹介および表紙作品題名
- 3 特集  
2002年サッカーW杯日韓共催にむけて  
広がる相互理解への取り組み  
開催地では 鹿嶋・西帰浦、清水  
2002年日韓国民交流年 これから行われる主な関連文化事業
- 6 日韓ボーイスカウト・ガールスカウト交流事業
- 7 2001年度下半期助成対象事業
- 8 助成事業紹介  
「こころの交流 朝鮮通信使 江戸時代から  
21世紀へのメッセージ」展 定森秀夫
- 10 日韓文化交流基金事業報告
- 12 調査ノート  
日本における韓国・朝鮮研究 図書館編 3  
国立国会図書館 網野美美

映画祭というものは、落ち着かないものである。一日に三本も四本も新作のフィルムを観、その合間に旧知の映画人と会ったり、デビュウしたばかりの監督と話したりして遅くまで呑んでいるといった日が、一週間ほども続く。私は香港でゆっくりと食事をしたことがあまりない。だいたいが島と半島を往復するフェリーの中で、イギリス風のサンドウィッチですましてしまっからだ。早くしないと、次の上映に遅れてしまう！

釜山映画祭は毎年十月ころに開催される。とはいっても、ここでもチャガルチ市場でゆっくりと海を眺めながら刺身で一杯という日は、残念ながら一日もなかった。では何を食べていたか。海苔巻である。韓国語はキムパプ、つまり海苔飯というのだが、映画館の外にいくつもあるキムパプ屋に飛び込んで、いろいろな種類のものを試しているうちに楽しくなってきた。キュウリ、玉子、ニンジン、カンピョウ、魚肉ソーセージ、タクワン、カニ棒を入れて巻いたものが二五〇〇W。サラダものだと二八〇〇W。油揚げとか海老、チーズなどが特別に入ると三五〇〇W。おまけに味噌汁とタクワンがついてくる。

油と肉をほとんど使わないことで、キムパプはアメリカのジャンクフードに比べてはるかに健康にいいと思う。店の壁にズラリと並んだメニューのなかからその日の気分に合わせて注文すると、サツと目の前で

巻頭エッセイ

キムパプと海苔巻

明治学院大学言語文化研究所所長

四方田犬彦

巻いてくれる。店内はいつも若者たちでいっぱい。食べ終わるとすぐに映画館に戻るといっわけである。

キムパプという食べ物を見てみると、つくづく日韓の文化交流がここでうまく実現されていると思う。本来、海苔巻は日本人の発明になるものである。それが韓国に渡り、しだいにスタイルが変わっていった。酢飯を用いることがなくなり、その代わりに海苔にこま油を塗ったり、米にゴマを混ぜたりするようになった。それは見事に韓国独自の料理となったのだ。数年前に韓国で小学生たちに、一番好きな食べ物はなにかというアンケートがなされたことがあったが、一位に輝いたのがこのキムパプだった。そして今では新宿の韓国風屋台に逆輸入され、人気を呼んでいる。

食べ物と音楽、つまり口の領域では、二つの文化はどんどん混ざり合っているような気がする。頭は口を抑えようとすると、誰も口を封じることができない。口のほうが心により近いところに置かれているからである。

よもた いぬひこ



一九五三年、兵庫県生まれ。一九七九年にソウルの建国大学で客員教授となり、帰国後、韓国映画の紹介に努める。著書に『われらが、他者、なる韓国』(平凡社ライブラリー)、『ソウルの風景』(記憶と変貌)(岩波新書、九月刊)がある。

# 2002年サッカーW杯 日韓共催にむけて 広がる相互理解への取り組み

日韓共催による2002 FIFAワールドカップまで1年を切り、次々に競技場が完工し、各開催地でもソフト・ハードの両面で準備の最終局面に入りました。

今回の大会は初の2国による共催であり、大会にちなんだ両国共同の文化行事や、相互理解への取り組みが活発に行われています。

日本の各開催地での日韓交流や相互理解のための取り組みを紹介し、また「2002年日韓国民交流年」関連の文化事業の一部をご紹介します。



## 1 開催地では

(1) W杯開催への街づくり

鹿嶋市（茨城）・西帰浦市（済州）

開催競技場のある鹿嶋市と、韓国西帰浦市の間では、W杯開催のための意見交換をきっかけに、相互交流の機運が高まっています。

一九九九年十一月に済州大学校の招きで市ワールドカップ推進室の職員が訪韓し、W杯への取り組みと、ハード面での準備状況について報告しました。地域の温かみがあり、市民が何らかの形で参加できるような運営を行うという鹿嶋市の方針についての説明では、スポーツボランティアの仕組みや市民参加による花いっぱい街づくり運動などの事例が挙げられました。西帰浦市側は、W杯後にはプロサッカーチームを誘致して地域の振興につなげる構想を持っており、鹿嶋市における鹿島アントラーズの事例について強い関心を示し、多くの質問が集中しました。

この訪韓時に、鹿嶋市の小中学生を対象に「わがまちのワールドカップに期待すること」というテーマで実施した絵画作文コンクールの入賞作品を西帰浦市内の初等学校で展示しました。

二〇〇一年一月に鹿嶋市で開催されたシンポジウム「カシマ・いまなすべきことPART」では、済州大学校康榮勲教授



が西帰浦市の準備状況について報告しました。市民団体ごとにとつづつ誇るべき事業をやるつという役割分担によるボランティアの仕組みや、外国客がタクシーを利用する際の通訳スタッフの中央統制方式などについて説明し、「単に大騒ぎして終わるということではなく、平和の祭典として歴史に残るものになりたい」と述べました。また、西帰浦初等学校の児童が韓日の友情などをテーマに描いたポスターを鹿嶋市内で展示しました。

鹿嶋市と西帰浦市では、この経験をW杯開催のためのノウハウの交換にとどまらず、相互交流や友好を深める契機ととらえ、積極的に今後のよりよい自治体間の関係に発展させていきたいと考えているそうです。

(2)「サッカーのまち」の草サッカー  
清水市(静岡)

二〇〇一年八月十七日から二十一日まで、静岡県清水市で第15回全国少年少女サッカー大会(主催・清水市、朝日新聞社(財)、日本サッカー協会(財)、静岡県サッカー協会)が開催され、日本全国から集まった少年少女サッカーチームとともに、韓国から二チームが参加しました。

全国少年少女草サッカー大会は、日本サッカー協会に登録している小学生チームであれば参加でき、五日間で、「ミニカップ」のリーグ戦と順位決定のトーナメントを行います。日本の代表的なサッカー選手を多く輩出してきた清水市がまちくるみで開催する手作りの大会で、全国のいろいろな実力のチームと試合できることが魅力です。大会期間中には、「サッカー祭り」などのイベントや指導者の講習会も開催されます。

一九九七年の第11回大会から、W杯日韓共催を盛り上げていくために、韓国から優秀な初等学校サッカーチームを招いています。今年は昨年の韓国初等学校蹴球大会で優勝・準優勝をおさめた、細柳初等学校(水原)と光徳初等学校(安山)チームが参加しました。

韓国のチームはいずれも確かな実力に定評があり、対戦した日本の選手からも、「とても強くて、うまい」という感想が出ていました。今回の大会では細柳初等学校

チームが三位の成績をおさめています。

韓国では全ての学校にサッカー部があるわけではなく、全国大会も割合少ないチームの間で厳しい競争が行われています。韓国のチームが大会に参加しはじめた当初は、日本と韓国の少年サッカーをとりまく環境の違いのため、大会の雰囲気戸惑ったりすることもありました。誰でも楽しんでサッカーをする」という日本のサッカーの持つ一面に対する理解が、回を重ねることに深まっています。同様の趣旨の大会を韓国で開催する計画もあるということです。

試合は厳しく、しかし一旦試合が終われば、自然に相手のチームの応援をしたり、フィールドの周りで一緒に過ごしてみたり。この大会を通して培われるフェアプレーの精神と自然体の交流から、選手たちは多くのものを学んでいくようです。



## 日本のW杯開催地で行われる韓国関連行事

札幌

第10回YOSAKOIソーラン祭りに韓国チームが参加(二〇〇一年六月)。



札幌ドーム

朝鮮王朝の美展(二〇〇一年七月、八月、北海道立近代美術館。九月、北海道立函館美術館。その後、広島、岐阜を巡回)。

宮城・仙台

仙台市と光州広城市が友好促進協定締結(二〇〇〇年五月)。



宮城スタジアム

新潟

日韓サッカージャーナリスト会議(二〇〇〇年十一月)。



新潟スタジアム ビッグスワン

二〇〇二年大会を取材する日韓両国の記者たちが、現状と課題について話し合った。

茨城

W杯開催スタジアムのある鹿嶋市と西帰浦市でW杯開催のための意見交換、小中学生の絵画交換展示。



カシマサッカースタジアム

埼玉

埼玉県日韓親善協会設立(二〇〇一年六月)。



埼玉スタジアム2002

日韓脳性まひ者七人制サッカー大会(二〇〇一年四月)。

横浜

トクイベン「韓国からみるワールドカップ」(二〇〇一年七月)。



横浜国際総合競技場

招き、韓国のW杯に対する取り組みなどを報告。

静岡

第15回全国少年少女草サッカー大会に韓国から二チームが参加(二〇〇一年八月)。



静岡スタジアム エコパ

大阪

アジアフェス2001「ジャパン・コリアスーパリアカペラショー」(二〇〇一年七月)。



大阪市長居スタジアム

神戸市の男性グループ「DREAM TEAM」と、ソウル出身男性グループ「人工偉声」が共演。

これから行われる主な関連文化事業

日本

国際交流基金アジアセンター漫画展 アジア IN COMIC展（2001年1月-2002年3月まで日本国内にて巡回）、第6回アジア漫画展「私の隣人イメージ」（2001年8月-2002年8月まで日本国内にて巡回）

現代美術展「Under Construction」（2002年12月-2003年2月、国際交流基金フォーラム）アジア各国の若手キュレーターが各国展を行い、集大成として東京展を行う

朝鮮王朝の美展（2001年9月19日-11月11日、北海道立函館美術館。2002年2月19日-3月31日、広島県立美術館。2002年4月9日-5月19日、岐阜県美術館）

国際民俗芸能フェスティバル（2001年9月15、16日、山口県。10月7日、滋賀県）晋州と珍島の伝統芸能の公演を行う

第8回BeSeTo演劇祭「旅立つ家族-天才画家李仲燮」（ソウル市立劇団）、「ゴドーを待ちながら」（劇団サンウルリム）を上演するほか、日韓中の演劇関係者によるシンポジウム、パネルディスカッションなど（2001年8月25日-10月28日、東京、静岡、富山）

ミュージカル「地下鉄1号線」（2001年11月15-18日、Bunkamuraシアターコクーン。11月20、21日、大阪シアタードラマシティ。11月24、25日、福岡市立西市民センター）

韓国映画プロジェクト2001（2001年11月、国際交流基金フォーラム）

韓国

世界陶磁器エキスポ2001（2001年8月10日-10月28日）

日韓ワールドカップ共催 日韓・記念民族オーケストラ 演奏会（日本音楽集団第26次海外公演）（2001年11月26日-12月2日、ソウル、大田、全州、光州、大邱、慶州、釜山、済州）

日韓両国

日本・韓国文化交流 - 平山郁夫・金興洙二人展（2002年1月8日-2月11日、東京芸術大学大学美術館）

日韓古美術品交換展 日本国内展（2002年3月末-5月初旬、大阪市立博物館。6-7月、東京国立博物館） 韓国国内展（2002年7月（予定） 韓国国立中央博物館）

日韓生活文化展 韓国生活文化展（2002年3月21日-7月16日、国立民族学博物館）、日本生活文化展（2002年2月15日-5月15日、韓国国立民俗博物館）

W杯共催記念・中学・高校教員（相互）交流事業 韓国人教員の日本招聘（2001年9月19日-10月3日）、日本人教員の韓国招聘（2001年10月16日-10月30日）

日韓映画交流事業（仮称）「韓国映画の現在（仮称）」（2002年6月-7月、東京国立近代美術館フィルムセンター）

日韓交流祭 第2回日韓交流祭「Japan-Korea Festival（仮称）」（2001年11月14-18日、釜山広域市釜山展示コンベンションセンター（BEXCO）にて開催予定）、第2回KOREA SUPER EXPO2001（2001年11月15-19日、インデックス大阪にて開催予定。「新しい韓国とのふれあい」をテーマに行事を構成予定）

日韓文化交流通信（日韓文化交流連絡室）  
<http://www.jpff.go.jp/jkxx>

2 二〇〇二年日韓国民交流年

「日韓国民交流年」は、日韓両国が大規模な国際的スポーツイベントであるサッカーW杯を共催するという重要な機会をとらえ、政府間だけでなく、幅広い分野で多くの国民の参加を得て、交流事業を推進していくというものです。二〇〇一年から

二〇〇二年にかけて、日韓両国で多彩な文化事業が開催されます。

「連絡先」

外務省大臣官房文化交流部  
 日韓文化交流準備室  
 電話／〇三 三五八〇 三三三一（代）  
 国際交流基金 日韓文化交流連絡室  
 電話／〇三 五五六一 三六三八（代）

神戸 FMラジオ番組「コリア・トゥデー」(FM MOOV)。W杯を機に、ユニティFM局でW杯情報と韓国紹介のラジオ番組を放送。



神戸ウイングスタジアム

大分 第五回日韓スポーツ交流事業・青少年スポーツ交流（日本体育協会）で、選手団の派遣／招聘



大分スタジアム ビッグアイ

写真は各開催地のW杯開催スタジアム

# 日韓ボーイスカウト・ガールスカウト交流事業

基金では一九九九年より開始した日韓高中生交流事業の一環として、ボーイスカウト日本連盟・ガールスカウト日本連盟に日韓スカウトの交流事業を委託しています。三年目となる今年も、韓国から中高生世代のボーイスカウト百名、ガールスカウト五十名が来日し、十四泊十五日の日程で、各地方を訪問しながら、さまざまなプログラムに参加し、日本のスカウトとの交流をはかりました。



ガールスカウト交流事業・滋賀のプログラムにて

ボーイスカウト日本連盟が受け入れを行った韓国の中生スカウト百名は七月二十八日に来日しました。日本スカウトの隊員とともに都内見学などの日程を過ごした後、三隊に分かれ、千葉、長野、岐阜の各県でそれぞれ日本のスカウトの家庭にホームステイし、日本の家庭での生活を体験しました。

また、各地域でボーイスカウトの大会であるキャンポリーに参加し、野外活動をしながらい頃の訓練の成果を確認する機会を得ました。八月五日には全員が広島で合流し、八月六日の平和祈念式典への出席を日程を含む日韓スカウトフォーラムが開催され、「21世紀の夢」というテーマのもと両国スカウトがさまざまな意見を交わしました。最後の京都・奈良の史跡見学の日程を終え、韓国スカウトは八月十一日に帰国しました。

ガールスカウト日本連盟が受け入れを行った韓国のスカウト五十名は七月二十七日に来日しました。到着後二隊に分かれて、滋賀や福井、静岡での各地域のプログラムに参加し、そば打ち体験、和紙の紙漉き体験などの伝統文化を学んだほか、日本側スカウトの家庭にホームステイをしました。一隊は七月三十一日から長野県戸隠ガールスカウトセンターで全国の高校生世

代のガールスカウトが作り上げる三泊四日のキャンポリープログラムに参加しました。

その後千葉に集合し、八月八日に東京で開催された韓国文化を知るためのプログラム「韓国DAY」では、日韓のスカウトが協力しあって準備と運営にあたりました。最後に評価会において全日程を通しての体験、学んだことを発表しあい、八月十日に韓国スカウトは帰国しました。

## 参加者のアンケートより

### 韓国ボーイスカウト

「14泊15日は長い時間だけど、いい友達に会えて、あっという間に時間が過ぎたように感じます。日本という国をよく知る機会になりました。」

「キャンポリーは暑くて大変だったけど、みんなと一緒に生活した3泊4日はとてもいい思い出になった。」

### 日本ボーイスカウト

「日韓スカウトフォーラムで意見交換をしてみて、世界にはいろんなものの考え方があるということを改めて強く感じました。とても勉強になった4日間でした。」

### 韓国ガールスカウト

「日本でホームステイして、日本に第二の家族ができたことがとてもうれしい。日本の友達は私の宝物です。」

「言葉は通じなくても心は通じる」ということを実感できた。日本のたくさんの友達の親切に感謝し、このことを韓国の友達にも伝えたい。」

### 日本ガールスカウト

「韓国の人々と過去の話をすることは確かに大切なことだと思います。でも、もっと大切なのはこれからの私たちの舞台となる“未来”。この交流を通して、日本と韓国のあり方が少しわかった気がします。」

# 2001年度下半期助成対象事業

2001年度下半期（10月～2002年3月）には、32件の交流事業に対して助成を行うことが決定いたしました。

## 青少年・草の根交流 16件

事業名	申請団体	実施時期	開催場所
北東アジア子供交流自然キャンプ	北東アジア子供交流事業実行委員会	2001/10/1-10/10	石川、長野、福井、愛知
ICAS 日本文化紹介プログラム	NPO法人 ICAS国際都市仙台を支える市民の会	2001/10/3-10/8	光州・湖南大学校、全南大学校ほか
韓国の作家との友好交流・2001	アンニョン2001韓国小説をジャコールする会	2001/10/5-10/8	ソウル
日本大学・韓国中央大学 心理学研究交流	日本大学大学院文学研究科社会心理学研究室	2001/10/15-10/21、 11/15-11/21	東京・日本大学文理学部、ソウル・中央大学校
第1回堺国際芸術芸能フェスティバル「2002年日韓国民交流年」事業	堺国際芸術芸能フェスティバル実行委員会	2001/10/16-10/23	関西国際空港、堺市ほか
韓国伝統打楽ブムルワークショップ「韓国の楽器を楽しもう！」	日韓芸術交流祭実行委員会	2001/10/25-10/26	香川・アイバル香川、宇多津中学校
韓国・朝鮮の文化にふれるワークショップ	コリア文化サークル「バランセク」	2001/10/27-10/29	ソウル、富川
愛知教育大学歴史学会日韓学術・文化交流事業	愛知教育大学歴史学会	2001/11/5-11/10	清原・韓国教員大学校
乙訓高校・ソウル高校『日韓高校生スポーツ交流・史跡フィールドワーク交流』	京都府立乙訓高等学校硬式野球部保護者会	2001/11/10-11/12、 2002/3/24-3/26	京都・乙訓高等学校、ソウル高等学校ほか
2002年ワールドカップサッカー大会日韓共同開催記念「日韓合同演奏会 平和の大合唱（埼玉公演）」	埼玉第九合唱団	2001/12/8-12/12	埼玉・大宮ソニックホール、行田市産業文化会館大ホール
韓国浦項工科大学校の訪日研修団	浦項工科大学校	2002/1/5-1/16	東京、茨城・つくば、京都
韓国における日本文化開放と日本学の動向	韓国外国語大学校 国際地域大学院（日本文化探求班）	2002/1/9-1/12	東京・国際基督教大学
2002年ワールドカップサッカー日韓共催記念 ソウル国立大学混声合唱団・東京大学コーラアカデミー ジョイントコンサート	東京大学音楽部コーラアカデミー	2002/1/12-1/19	ソウル、東京
慶應大・漢陽大学生交流セミナー及び現地企業調査 “日韓学生” 交流の旅	慶應義塾大学 総合政策学部 柳町研究会	2002/2/9-2/12	ソウル
日韓歴史交流シンポジウム「江戸時代ハンゲル石塔のなぞ」	日韓市民ネットワーク・なごや	2002/2/21-2/26	天安、公州、扶余ほか
	千葉県日本韓国・朝鮮関係史研究会	2002/3/21-3/27	千葉・たてやま夕日海岸ホテルほか

## シンポジウム・国際会議 6件

事業名	申請団体	実施時期	開催場所
朝鮮半島をめぐる知のパートナーシップ構築のためのラウンドテーブル2001	社団法人北太平洋地域研究センター（NORPAC）	2001/10/15	札幌・北海学園国際会議場
東アジア日本語教育・日本文化研究会国際学術会議	東アジア日本語教育・日本文化研究会	2001/10/27-10/28	ソウル・祥明大学校
建築の主体性、建築家の主体性	Artsonje Center	2001/11/14	ソウル・Artsonje Center
「境界を越えて・日本文化・文学研究の新たな地平」高麗大学校日本学研究所2001年度国際学術シンポジウム	高麗大学校付設日本学研究所	2001/11/24	ソウル・高麗大学校国際館
シンポジウム「日本における16～17世紀朝鮮半島産陶磁器の受容について」（仮称）	大阪市学芸員等共同研究実行委員会	2001/12/2	大阪歴史博物館 大講堂
日韓協働国際シンポジウム “東アジア世界の未来を拓く”	横浜市立大学政策NGO	2001/12/17-12/18	横浜市立大学 よこはまアーバンカレッジ

## 芸術交流 10件

事業名	申請団体	実施時期	開催場所
ワールドカップ記念 文化イベント公演 - 島 -	日本文化伝統産業近代化促進協議会（J-ART）	2001/10/1-12/23	大阪国際交流センター、大阪市男女共同企画センター
The 3rd Jeonju Sanjo Festival, 2001	オフィス・サウンド・ポット	2001/10/4-10/7	全州・校洞地区
ヒダノ修一&リーチュヒ（李周熙）	有限会社 きりん社	2001/10/12-14、 11/23-/26	東京・青山円形劇場
スーパーセッション featuring 瀬木貴将			
日韓ライブマスク2002	ピースアート21 実行委員会	2001/10/13- 2002/3/18	全州、水原、大邱、京都、大阪、神戸ほか
第3回亜細亜現代彫刻展及び帰国展（成果報告展）	アジア現代彫刻会	2001/11/1-11/25、 2002/2/3-2/8	光州・寧殷美術館、福岡アジア美術館
日韓若手美術家交流会	吾妻美学校	2001/11/3-11/9	東京・韓国文化院ほか
韓国オラトリオ合唱団 “The Korea ORATORIO” 日本特別公演	韓国オラトリオ合唱団演奏会実行委員会	2001/11/10	埼玉・彩の国さいたま芸術劇場
第4回ナムサダン奈良公演・第2回ナムナム発表会	ナムナム	2001/11/11	奈良県橿原市
日韓親善パッチワークキルト展「山口怜子の世界」	有限会社ベブルスタジオ “山口怜子パッチワークキルト展 世界巡回展実行委員会”	2002/3/3-3/9	ソウル・韓国第一文化院、草田繊維博物館
日韓親善 チェロコンサート	特定非営利活動法人 国際チェロアンサンブル協会	2001/3/10	横浜・神奈川県民ホール

# 「二二〇〇年の交流 朝鮮通信使 江戸時代から21世紀へのメッセージ」展

京都文化博物館主任学芸員

定森秀夫

二〇〇一年は二十一世紀開幕の年であるとともに、日本と韓国とが共同開催する二〇〇二年ワールドカップサッカーの前年にあたる。日本と朝鮮半島とは、原始古代以来、交流を続けてきている

が、十六世紀末の豊臣秀吉による朝鮮侵略と、十九世紀後半から二十世紀前半までの大日本帝国による朝鮮侵略・植民地支配とは、朝鮮半島の人々に深い傷を残している。その二つの侵略の間の江戸時代



福岡会場

代に、朝鮮通信使の来日に代表される両国の善隣友好関係が約二〇〇年もの長きにわたって維持されていたことはあまり知られていない。

二十一世紀には、日本は韓国、さらにはアジアの国々との友好の絆をこれまで以上に強く築き上げていく必要がある。そのことを考え、実行していく指針の一つとして、いま一度、江戸時代の朝鮮通信使を見直してみることは決して無意味なこと

ではない。朝鮮通信使から教訓を汲み取っていききたい、そのような意図のもとに本展が企画された。

上田正昭・辛基秀・仲尾宏先生に監修していただきながら、実際に本展の準備をし始めたのは一九九九年六月末であった。実は、本展を担当した私は朝鮮考古学を専攻しているが、専門分野が異なるために、朝鮮通信使という名称は知ってはいたものの、その内容に関しては全く無知といってもよい状況であった。したがって、ともかく朝鮮通信使に関する本をいくつか読むことから、私自身の仕事は始まった。

監修の先生方がすでに作品リストを作成されていたので、作品の所在を探したり、新資料の情報を収集し、同時に展示ストーリーをどうするか、会場の展示構成をどうするかなどを考え、イメージを具体化する作業を日々続けた。二〇〇〇年夏には、二月月ほど発掘調査に出

た。専念できない状態に置かれてしまっ

たが、それでも現場作業の休憩時間などにイメージ具体化の作業を継続する努力をした。一方、作品を実際に見て必要な情報を得るために、所蔵先に伺い作品を見せていただき、メモを取ったり、写真を撮る作業も併行して行った。この資料調査は展覧会準備には必須の作業である。写真などから頭でイメージした作品と実際の作品とは異なる場合が多く、今回も何度かそれを経験した。また、調査してみて初めて分かったことも多々あり、新資料の情報もいくつか入手することができた。

展示構成は、思考の紆余曲折を経ながら、最終的には五部構成となった。「プロローグ 朝鮮通信使とは」では、



時給螺鈿朝鮮通信使図視箱（個人蔵）



豊臣秀吉の朝鮮侵略と徳川家康の国交回復、および朝鮮通信使は絵画・文書などに極めて多く記録されるほど日本人の興味の対象であったことを展示、「第1部 漢城から江戸へ」では通信使の道程を辿りながら、日本各地に残る絵画類からその歓迎の熱狂ぶりを展示、「第2部 雨森芳洲の誠心外交」では、対馬藩で対朝鮮外交を真摯に担った雨森芳洲の善隣友好の思想とその実践を展示、「第3部 誠心の交わり」では、通信使との交流、通信使が影響を与えた祭礼や工芸品・民芸品などを展示、「エピソード」21世紀の新たな善隣友好へ」では、明治政府による朝鮮侵略から植民地支配の歴史を経て、二十世紀後半からの友好関係、今後それをさらに増進する必要性を展示した。

本展で一番苦労したのは、図録の作

成であった。作業が全体に遅れていたの  
で、作品解説の執筆に集中できたのは二  
〇〇一年三月に入ってからで、それ以降  
休日無し、毎日ほぼ九時過ぎまでの勤務  
が二カ月ほど続いた。四月中旬、韓国へ  
作品を借用に行った時には、最終校正を  
持参し、印刷所の担当者と同際電話で校  
正を行った。その苦勞の甲斐あってか、  
京都展では入場者総数の約十四%にあた  
る、三二〇〇冊近くを販売することがで  
きた。

この展覧会は、京都文化博物館で二  
〇〇一年四月二十八日(土)から六月三  
日(日)まで、福岡県立美術館で六月十  
日(日)から七月十五日(日)まで開催  
され、京都展では約二万二五〇〇人、福  
岡展では約九八〇〇人の入場があった。  
また、両会場ではシンポジウム・講演会  
などの関連事業も実施され、それぞれ盛



趙泰億像 狩野常信筆(韓国国立中央博物館蔵)

朝鮮通信使船団図屏風 狩野探信筆(個人蔵)



況であった。両会場で、アンケート調査  
を実施した結果、感動・感激したと本展  
を非常に高く評価していただき、今後も  
日韓善隣友好関係をますます強めてい  
べきという意見が圧倒的に多かった。入  
場者は当初想定した人数には達してい  
ないが、展覧会はその企画意図が十分に理  
解され、ほぼ成功を収めたと言える。

今回、韓国国立中央博物館と宮中遺  
物展示館から九件十一一点の作品を借用す  
ることができ、また日韓文化交流基金・  
国際交流基金から助成をいただくことが  
できた。京都展開会式には国立中央博物

館の池健吉館長、宮中遺物展示館の安喜  
均館長が出席され、また作品輸送・展示  
の立ち会いに両館の学芸研究員が来日さ  
れて、日韓の文化的・人的交流ができた  
ことも大きな成果であった。



さだもり ひでお

1952年、岡山県生まれ。九州大学文学部卒業。名古屋大学大学院博士前期課程修了。古代学協会研究員・平安博物館助手を経て現職。東アジア考古学、日韓交流史を研究。

# 日韓文化交流基金事業報告

7 ~ 9月

## 第17回日韓文化交流基金 韓国訪問団

八月二十一日から二十四日まで、当基金代表団が訪韓いたしました。

今回の訪韓団では要人への表敬訪問や、研究者・文化人との懇談会などを通じ、現在、教科書問題などの影響を受けて複雑な状況下にある日韓交流について多くの意見が交わされました。

## 報告書

以下の事業報告書が完成しました。

基金図書センターでご覧ください。

日本大学生訪韓研修団

(二〇〇一年三月六日～三月十五日)

日本大学生訪韓研修団

(二〇〇一年三月二十日～三月二十九日)



### 参加者

団長	藤村正哉	基金会長、三菱マテリアル(株)相談役
副団長	熊谷直博	基金理事長
顧問	戸塚進也	基金常任理事、元衆議院議員
顧問	竹内宏	(財)静岡総合研究機構理事長
団員	小山敬次郎	基金理事、目白大学教授
団員	竹下勅三	基金理事、竹下事務所代表
団員	檜崎正博	基金理事、関電産業(株)取締役社長
団員	梅田博之	麗澤大学副学長
団員	石川捷治	九州大学韓国研究センター所長
団員	前田二生	指揮者
団員	大竹洋子	東京国際女性映画週間ディレクター
団員	久一昌三	基金事務局長

(敬称略・順不同)

### 日程

日時	日程
8/21 (火)	ソウル到着
午後	鹿取臨時代理大使による「韓国の現状」についてのブリーフィング 日本大使館主催晩餐会
8/22 (水)	在ソウル日本人会役員との懇談朝食会
午前	金守漢韓日親善協会中央会会長表敬訪問 金鍾泌韓日議員連盟会長表敬訪問 在ソウル日本人記者との懇談昼食会
午後	金相慶韓日経済協会会長表敬訪問 韓日文化交流基金主催晩餐会
8/23 (木)	「世界陶磁器エキスポ2001」視察
午後	基金フェロースhip研究者、文化人との懇談会 藤村団長主催答礼晩餐会
8/24 (金)	帰国

## 訪韓団

団体名	計	男	女	期間
三重県教員訪韓研修団	18	12	6	9/18 9/27

## 平成14(2002)年度 訪日・訪韓フェローシップ切迫る

当基金では、日本研究に取り組む韓国人研究者と、韓国・朝鮮の歴史研究に取り組む日本人研究者への支援制度として、相手国に滞在し、調査・研究活動に従事するためのフェローシッププログラムを設けています。2002年度

フェローシップの申請期間は10月末日までです。

申請資格などの詳細を記載した募集要項、申請書書式は基金ウェブサイトからダウンロードすることができます。

## 平成14(2002)年度 助成事業募集

基金ではこれまで13年間にわたり、合計500件にも及ぶ民間交流事業を支援してまいりました。

平成14年度も日韓の共同作業による事業、両国の知的分野における交流などを重点対象とし、青少年・草の根交流や、シンポジウム・国際会議、芸術交流、図書出版といった分野への助成を通じて、日韓交流のより一層の多様化・活性化を目指していきたいと考えています。

### 人物交流助成

両国の人々が実際にふれあい、意見を交換し、一つのものを作り上げるといった参加型プログラムを重視しながら、日韓が共同して実施する民間交流を支援します。

### 対象事業

#### 青少年・草の根交流

青少年や大学による日韓相互理解のためのプログラムや、NPO等による地域間交流、民間交流を目的とする事業

#### シンポジウム・国際会議

日韓両国の文化や日韓関係など、両国にかかわる人文社会科学分野のテーマを扱うシンポジウム・国際会議

#### 芸術交流

日韓の専門家による公演・展示・共同制作など、芸術分野における本格的な交流を目的とする各種の文化事業

### 募集期間

上半期募集：2002年1月4日～2月1日

(2002年4月～2003年3月実施事業)

下半期募集：2002年7月1日～8月1日

(2002年10月～2003年3月実施事業)

平成14年度より、上半期募集において年度内全期間の事業について申請できるようになりました。

### 図書出版助成

図書を通じた韓国理解は、地道ながらも交流の土台となる認識形成に大きな役割を果たします。基金では昨年より図書出版への支援を開始しました。

### 対象図書

日本での韓国理解促進につながる図書や、日本における韓国・朝鮮研究の成果を著した学術図書

2002年4月から2003年2月までに出版が完了予定の図書

申請時に原稿が完成しているもの

翻訳書の場合は次の点を満たしているもの

- ・韓国語原著からの直接の翻訳であること
- ・原著はすでに刊行されている図書であること
- ・原著についての著作権処理が助成申請時まで完了していること

### 募集期間

2001年12月1日～12月15日

募集期間が早まりましたのでご注意ください。

申請資格や助成対象経費など申請についての詳細を記載した募集要項ならびに申請書書式は、基金ウェブサイトからダウンロードすることができます。

# 日本における韓国・朝鮮研究 図書館編 ③ 国立国会図書館

国立国会図書館アジア資料課 網野美美 (あみの よしみ)

国立国会図書館は、日本で唯一の納本図書館として国内刊行物を網羅的に収集しているほか、国際交換および購入により、外国資料の収集にも努めている。図書約748万9000冊、逐次刊行物約16万7000種、そのほかマイクロ資料や地図、文書などを所蔵している。

韓国・北朝鮮に関する日本語・欧文資料は主にWeb-OPAC (<http://www.ndl.go.jp>) で検索することができる。また、冊子目録として『国立国会図書館所蔵朝鮮関係資料目録1. 日本文篇』(1966年)、『同補遺版』(1983年)、『同2. 欧文篇』(1967年)がある。

朝鮮語資料(下表参照)のうち、図書は『国立国会図書館所蔵朝鮮関係資料目録3. 朝鮮文篇』(1970年)、『同補遺版』(1984年)およびカード目録で、逐次刊行物は『国立国会図書館所蔵アジア言語逐次刊行物目録』(1995年3月現在)などで検索できる。

また、通常の図書・雑誌とは別に、主題や形態によっては各専門資料室で利用する資料群がある。韓国の官報や法令集・議会資料などは「法令議会資料室」、朝鮮総督府作成の地形図など近代以降の一枚物の地図は「地図室」、朝鮮本などの和装本は

「古典籍資料室」、斎藤実関係文書や占領期の米軍政資料などは「憲政資料室」で所管している。

このように、韓国・北朝鮮関係資料といっても、当館の場合多岐にわたるが、その中でも朝鮮語資料の大半を所管しているのが、アジア資料室である。

アジア資料室には約1万冊の参考図書類が自由に閲覧できるように開架されている。そのうち韓国・北朝鮮関係は、日本語・欧文・朝鮮語資料、合わせて約1500冊。さらに「毎経economy」「月刊朝鮮」「千里馬」など代表的な雑誌31タイトル、「朝鮮日報」「東亜日報」「労働新聞」など主要新聞9タイトル(約2カ月分)を開架している。

当室所管朝鮮語図書は約1万冊。参考図書のほか、最近の基本図書、統計資料、地方史誌、会社・団体史、学校史などの収集に力を入れている。

雑誌・年鑑類は合わせて1913タイトル所蔵。学会誌や時事雑誌、各種業界の年鑑等を購入しているほか、国際交換により政府刊行物、大学出版物を多く収集している。

新聞は90タイトルを所蔵、そのうち開架新聞を含め18タイトルを継続受け入れ中である。また「漢城旬報・漢城週報」「皇城新聞」など近代の新聞をはじめ、戦時中を通して刊行された「毎日申報」、戦後から1993年までの「延辺日報」など、新聞縮刷版も多数所蔵している。

アジア資料室は、2002年開館予定の国立国会図書館関西館(仮称)



アジア資料室

において、「アジア文献情報室」として新たに出発する予定である。参考図書、基本図書、主要な雑誌・新聞を開架により約5万冊提供するほか、アジアに関するレファレンスサービス・文献提供サービスをはじめとする各種利用サービス、および内外のアジア関係機関との協力活動などを主要な機能と考えている。また、地域格差のないアジア資料・アジア情報の提供サービスを目指して、現在ユニコード対応の中国語・朝鮮語書誌データベースなどインターネットで利用可能な情報サービスを開発中である。

## 国立国会図書館

所在地 〒100-8924 東京都

千代田区永田町1-10-1

電話 03-3581-2331(代表)

ホームページ <http://www.ndl.go.jp/>

開館時間 9:30~17:00

休館日 日曜日、土曜日(第1、第3土曜日を除く)

国民の祝日・休日、年末年始  
第1・第3土曜日の直後の月曜日(祝日・休日にあたる時はその翌日)

1月、4月、7月、10月の第3土曜日直前の水曜日

利用できる人 満20歳以上の方

### 朝鮮語資料

1986年以前 朝鮮語図書 約7500冊  
(図書閲覧課所管)

1986年以降 朝鮮語図書 約10000冊  
(アジア資料課所管)

朝鮮語雑誌・年鑑類 1913種  
(うち継続600種)

朝鮮語新聞 90種  
(うち継続18種)

(2001年7月現在)

## 基金ホームページURL

<http://www.asc-net.or.jp/jkcf>

ホームページ E-mail: [jkcf@asc-net.or.jp](mailto:jkcf@asc-net.or.jp)

図書センター E-mail: [lib1jkcf@oak.ocn.ne.jp](mailto:lib1jkcf@oak.ocn.ne.jp)

発行 (財)日韓文化交流基金  
〒105-0001 東京都港区虎ノ門5丁目12番1号  
虎ノ門ワイコービル3F

電話 03-5472-4323 FAX 03-5472-4326

発行日 2001年9月28日